

地方武道館の有効活用・健全運営めざし 各都道府県立武道館が意見交換

令和3年度 全国都道府県立武道館協議会 事務担当者会議



全国の武道館の現状などが報告された全体会

令和3年度全国都道府県立武道館協議会（全武協）事務担当者会議が1月17・18日、日本武道館で開催された。コロナ禍のため、参加者は例年より少なかったものの、全武協に加盟する全国の武道館16館の17名が出席、活発な意見交換が行われた。

この会議は、全武協の活動や武道施設の管理・運営、ならびに中学校武道必修化について広く意見交換を行い、全国的な武道の普及・振興に資することを目的に、3年に1度開催されている。

会議は1日目に基調講演、全体会（全武協の事業などについての概要説明）、分科会（少人数のグループに分けての情報交換会）、日本武道館の施設見学、2日目は分科会報告などが実施された。

■1日目（1月17日）

はじめに、吉川英夫日本武道館理事・事務局長が開会挨拶を述べ、次に出席者全員の紹介を行った。

●基調講演

吉川理事・事務局長が「武道で日本を元気にしよう―加盟52館が相互

に連携・協力し、武道を通じて地域の活性化と、強く、逞しい青少年の育成を―」をテーマに講演した。同理事はまず、武道の良さ・魅力について、宮本武蔵、嘉納治五郎師範といった歴史上の人物や柳生新陰流の家訓「柳生家憲」の名言を用いながら説明。また、武道の国際的な広まりについて言及した上で、昨夏の東京五輪・パラピックで改めて武道の魅力が世界に発信されたことを述べた。

さらに日本武道館の取り組みや役割、全武協の役割、中学校武道必修化の現状などを説明。「現在、コロナの影響で地域社会武道指導者研修会や地方青少年武道錬成大会の中止が相次いでいますが、これまでの参加者が開催の復活を待っています。また、武道ツーリズムも徐々に再開してきています。我々が協力しながら武道の魅力を伝えていきましょ」と述べ、最後に「武道の理念」を読み上げ、講演は終了した。

●全体会

篠寄浩之日本武道館振興部副参事・普及課長が全武協の概要について説明。都道府県内の武道館協議会



日本武道館内の施設を見学する参加者



吉川理事によるスライドを使っでの基調講演

（公立武道館協議会）と都道府県武道協議会の設置状況、そして全武協の発足と歴史、予算、日本武道館との共催事業として行う地域社会武道指導者研修会・地方青少年武道錬成大会の実施概要や事務・経費など、事務担当者の実務に沿った話がなされた。

●分科会（1日目）

参加者主体で行われる1日目の分科会が行われた。加盟館の武道施設・設備の内容ごとにA～Dの4班（1班3～6名）に分かれ、日本武

道館職員の司会で進められた。

それぞれの班では、(1)全武協共催事業（地域社会武道指導者研修会・地方青少年武道錬成大会）について、(2)日本武道館として実施している武道普及・振興施策について、(3)運営面（施設の貸し出し、サービスなど）について、(4)施設・設備の管理面について、(5)指定管理者制度について、(6)その他（主にコロナ対策）、の6項目について、参加者たちが現状や課題を報告した。

●施設見学

参加者全員で日本武道館の施設見学を行った。今回は増改修工事によって新しく建てられた中道棟や内装を一新した大道場を見て回った。参加者たちは職員の説明に熱心に耳を傾け、質問したり、写真を撮ったりしながら見学した。

■2日目（1月18日）

●分科会（2日目）

2日目は、前日に引き続き分科会が行われた。

●分科会報告

分科会の終了後、全体の質疑応答に移った。その後、各班を代表して

A班 櫻庭知基氏（青森県武道館）、B班・日出山亮太氏（愛媛県武道館）、C班・久保木剛氏（宮城県第二総合運動場）、D班・坂本聖道氏（福岡県立スポーツ科学情報センター）が、それぞれの班で行われた話し合いの概要を紹介した。

●まとめ・閉会挨拶

まとめとして参加者のうち代表者5名が感想を述べた。

- ・本会議に参加して他の加盟館も同じ悩みを抱えていることが分かり、貴重な経験になった（新潟）
- ・抱えていた課題について共に考えていただき、よかった（長野）
- ・他の加盟館と情報共有ができ、今後の管理・運営に反映させていきたい（神奈川・横浜）

- ・来年に閉館が決定しているが、全武協では47都道府県の協議会が揃ったため、なるべく空白の期間を置かないよう、新たな施設の実現に向けて努力したい（山形）

- ・コロナ禍の影響で参加者数の減少があったものの、通常より濃密な意見交換ができた（高知）

最後に鈴木達也日本武道館振興部長が閉会挨拶をし、会議は終了した。



分科会での意見交換の様子

分科会での主な協議内容

▼A班（青森県武道館、秋田県立武道館、千葉県総合スポーツセンター武道館）

（課題）以前、公立武道館協議会の助成金については条件に当てはまらずに申請できないことがあった。

（解決策）武道振興のためにも積極的に助成金を申請した方が良いと思う。武道祭を開催し、9武道の披露などをしてはどうか。

（課題）コロナ禍が2年続き、武道大会の参加者が戻ってくるのが心配。また、利用者が入らないと武道館自体が閉鎖状態になってしまう。

（解決策）行政各所にも相談を重ねたい。

（感想）コロナ禍で受けたダメージが大きい。以前の状態に戻るよう日本武道館とも協力して武道事業などに尽力していきたい。

▼B班（東京武道館、謙信公武道館、滋賀県立体育館・武道館管理センター、愛媛県武道館）

（課題）一番の課題は、武道事業を

開催するにあたり、参加者の確保が厳しいことである。広報の充実、促進が重要になると考えている。

（解決策）広報活動として4館ともSNSを使用しており、スピード感を持ちつつ人目を引く内容（武道教室や行事の名前の工夫など）を発信して参加者増につなげたい。

（感想）加盟館だけでなく地域の道場や県内の各武道連盟と協力し、武道の競技人口を増やせるように積極的に事業を行いたい。

▼C班（宮城県第二総合運動場、栃木県総合運動公園武道館、シンコースポーツ神奈川県立武道館、高知県立武道館）

（課題）老朽化対策として改修工事を行う武道館が多くあるが、コロナの影響で資材が入らず、工事期間が伸びてしまう問題が起きている。

（解決策）新しい施設に一新している加盟館と、改修があまり進んでいない加盟館の間に設備の差が生

じていると感じた。互いの良い部分を取り入れることでより良い武道館運営ができると思われる。

（感想）バリアフリー化や災害時の避難施設としての改修についても考えていきたい。

▼D班（山形県武道館、横浜武道館、長野県立武道館、兵庫県立武道館、福岡県立スポーツ科学情報センター）

（課題）武道の普及・振興事業のためには子どもを対象にした教室や体験事業が重要になると考えられる。

（解決策）対象を小学生に絞ったり、1クールを4回までとすること、1回の参加料金を低額に設定するなどして、気軽に教室に通えるように工夫する。

（課題）人気の種目は定員をオーバーすることもあるが、反対に人が集まらなくて実施が難しい種目もある。

（解決策）地域でチラシを作成・配布したり、SNSを活用して子どもに興味を引くように工夫する。

全国都道府県立武道館協議会事務担当者会議参加者

(敬称略)

	都道府県名	加盟館（所属）	出席者
1	青森県	青森県武道館	櫻庭 知基
2	宮城県	宮城県第二総合運動場	久保木 剛
3	秋田県	秋田県立武道館	加藤 功一
4	山形県	山形県武道館	工藤 正広
5	栃木県	栃木県総合運動公園武道館(ユウケイ武道館)	木村 悠生
6	千葉県	千葉県総合スポーツセンター武道館	桑田 勝次
7	東京都	東京武道館	石崎 万理
8	神奈川県	シンコースポーツ神奈川県立武道館	鈴木 博
9	神奈川県	横浜武道館	大山 圭子
10	神奈川県	横浜武道館	小湊 悠維
11	新潟県	謙信公武道館（新潟県立武道館）	丸山 兼矢
12	長野県	長野県立武道館	内田 賢悟
13	滋賀県	滋賀県立体育館・武道館管理センター	八木 克潔
14	兵庫県	兵庫県立武道館	小林 典正
15	愛媛県	愛媛県武道館	日出山亮太
16	高知県	高知県立武道館	近澤 顕義
17	福岡県	福岡県立スポーツ科学情報センター	坂本 聖道